

教育学部 数学研究室

みなさん、こんにちは。教育学部学校教育教員養成課程の数学研究室(数研)について紹介させていただきます。数学研究室では、現在、2年生16人、3年生17人、4年生13人、大学院生5人が在籍しており、6人の先生方のご指導のもと、毎日勉強に励んでいます。

2年生では、代数学、幾何学、解析学を勉強します。高校までとは違い、専門的な内容になるのでギャップを感じるかもしれませんが、どの先生方も質問に行くとう優しく教えてくださいます。また、先輩方からテストの前には過去問をいただき、みんなで一緒に教えあいながら勉強すると、楽しく乗り越えられます。

3年生では、新しく確率・統計、算数・数学科の教育法を学びます。教育法では、附属小学校及び附属中学校で実際に授業をさせていただきます。また、後期からは、自分が専門としたい分野を選んで研究するゼミが始まります。

4年生では、必修の数学の授業はなく、卒論に向けて

研究を進めていきます。

大学院での2年間は、修士論文に向けての自分の研究が中心になりますが、学部のときよりも、より専門的な内容を少人数で勉強します。少人数なので学生中心で授業が進められ、様々な意見が飛び交う和気あいあいとした楽しい授業ばかりです。

他にも、歓迎会、夏合宿、送別行事、スポーツ大会などの親睦を深める行事や、未来からの留学生や大学祭での模擬店の出店など、様々なイベントがあります。卒業した先輩方が遊びに来てくださることもよくあり、とても仲のいい研究室です。みなさんとお会いできることを楽しみにしています。



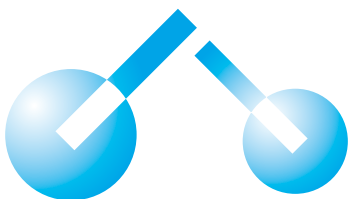
スポーツ大会



歓迎会(美女に囲まれて先生にっこり)



大学祭での模擬店



教育学部 理科領域

皆さん、こんにちは。ここでは、教科教育コース理科領域(理研)の紹介をしたいと思います。理研には現在9人の先生方のご指導のもと、学部生・院生あわせて52人の学生が在籍しています。今年も2年生14人と教員2人が新たに加わり、年々人数が増えて活気づいています。

理研は物理学・化学・生物学・地学・理科教育学の5つの分野があります。2年生では主に、物理学・化学・生物学・地学の基礎的な学習と、それに伴った実験を行います。3年生では、より理科の教員として必要な、指導案の書き方・教材作り・単元作りを行っていきます。そして4年生では、それまでの学習を生かして、個々で自分の選択した分野の卒業研究に取り組んでいます。

また、授業以外の活動も盛んです。毎年5月に行う合宿研修では、教員・学生と一緒に、1泊2日の日程で、生物観察・地質観察・デモ実験を行い親睦を深めています。また

8月の「オープンキャンパス」や10月の「未来からの留学生」では、主に2・3年生が中心となって、子どもたちと一緒に「スライム」などの科学工作や、「綿菓子製作器」の作成指導を行っています。こういった数々のイベントの経験から、子どもたちにとって、楽しい授業・教材とは何かということを感じることができ、教員になった時に大いに役立つことと思います。

理科領域は楽しく、そして深く理科を学ぶことができる研究室です。上に書いたこと以外でも、学生が集まって一緒に遊んだりすることによって絆が深まり、学年を超えて仲良くなることができます。そんな理科領域に少しでも興味を持った方、ぜひ一度遊びに来てみてください。

あっ!ちなみに来年は新しい校舎で授業が受けられますよ。



授業風景



オープンキャンパスに向けての準備



合宿研修

教育学部 幼児教育研究室

みなさん、こんにちは!今から幼児教育研究室について紹介したいと思います。

幼児教育研究室には、現在3人の先生方のご指導のもと、2年生13人、3年生13人、4年生13人、院生1人、計40人の学生が在籍しています。

授業では、保育士・幼稚園教諭の免許取得に向け、幼児教育の専門分野(養護原理、保育指導論、乳児保育、幼児音楽など)の科目を学習しています。文献や事例をもとに乳幼児の発達を学んだり、実践的な学習をしたりと、多方面から幼児教育について学びます。実践的な学習では、絵本の読み語りをしたり、調べてきた手あそびを発表し合ったりします。また他の研究室より早く、2年生の夏から現場での実習が始まります。実習では辛いこともありましたが、子どもたちの笑顔に励まされながら多くのことを学び、大きく成長することができました。大学院では、国公立、私立を問わず、幼児教育現場に赴いて、長期的に参加観察をしながら研究を進めています。

授業以外の活動では、新歓コンパや冬の研修合宿、卒論発表会などがあります。10月には「未来からの留学生」で、県下の幼稚園児や小学生を迎え、親子で楽しめるちびっこ運動会とシャボン玉を企画・運営しています。

幼児教育研究室では、幼児教育を専門に学ぶことができるだけでなく、授業や実習を通して学生同士の絆も深まっています。のんびりゆったりした仲間たちの中で、一人ひとりが個性を発揮していくことができる、魅力いっぱいの研究室です。興味・関心を持たれた方、是非一度遊びに来てみてくださいね。



「どこでも Choo Choo Train ☆ 笑」



「ええ仲間やけん」



「笑って・笑って・ハイチーズ!」

法学部 平野ゼミ

右を見れば長澤まさみ、左を見ればオダギリジョー。

こんにちは、平野ゼミです。私たちのゼミは、いつも穏やかで、授業中は鋭い課題を与えてくださる法学部の「お母さん」的存在の平野美紀先生の下、一癖とは言わず、二癖も三癖もある12人のメンバーで構成されています。

このゼミでは、今まで学習してきた刑法の基礎理念を土台として、医事刑法の諸問題について、それぞれ担当者が文献を調べてレジュメを作成・発表を行い、さらにその問題について全員で議論しています。そして、実際に刑務所など刑事施設への見学も行い、刑法やそれに関連する法律の問題点や政策の実情などを、より詳細に学び、考察しています。

具体的な授業の内容としては、各自最初の授業で医事刑法や刑事政策についてのテーマを選択し、そのテーマに従って毎回1人が担当として報告をします。担当者以外の人は、報告を聞いてわからなかったことを質問したり、報告をもとに自分なりに考えたことを意見したりして、議論を行っていきます。これまでの授業では、安楽死・尊厳死の問題や脳死・臓器移植の問題などを取り上げています。また、ゼミでは裁判所・刑務所・少年院などの見学も予定されており、私達は5月に高松刑務所に見学に行ってきました。



授業風景

授業中の様子については、みんなも授業がまだ始まったばかりのときは、あまりお互いのことを知らなかったため少し緊張していました。しかし、ゼミを行うごとに発表に関する質問も多くなり、このゼミに対する姿勢も、さすが3年生というべき形になってきました。まだまだ今の4年生の方には及びませんが、各自が自分の課題を設定し、この刑法ゼミにとどまらず、多方面で進歩し成長していけるように、がんばっていこうと思っています。どうぞよろしくお願ひします。



授業風景



みんなと一緒にハイ!! チーズ

法学部
濱崎ゼミ

本ゼミは、今年度から開講になったゼミです。第一期のゼミ生は7人(男性5人、女性2人)で、ゼミ論文の完成を最終的な目標として、民事訴訟法を学んでいます。「民事訴訟法」は、私人が通常の生活で会うことが予想されるもめごと(=紛争)の解決を目的とした法律です。しかし、手続法である民事訴訟法は、これまでの講義の多くで扱われてきた実体法とは異なり、そのイメージもなかなかつかみにくいものです。

そこで、まずは民事訴訟法の基本的なしくみを学ぶところから、ゼミが始まりました。担当者は、基本的な事項について、レジュメを作成し、発表を行います。そして、その発表に対して、質疑応答により知識を深めます。レジュメの作成やゼミの予習は、まだあまり学んでいない分野ということもあり、ゼミ生は悪戦苦闘しています。しかしそのことによ

って、たくさんの判例や文献にあたることになり、理解もより深まります。

現在は、ゼミの前半で身につけた知識をもとに、それぞれが興味を持った判例を選んで、その判例をもとに議論を行っています。判例をもとに学ぶことで、「民事訴訟」についての具体的なイメージを得ることにつながり、また民事訴訟法のなかの概念についても確認ができます。

また、講義だけではなく、裁判傍聴や親睦会なども予定されています。まだ開講間もないゼミで、教員もゼミ生も手探りの状態ですが、活発な議論が展開されるゼミを目指したいと考えています。そして、議論を通して、「民事訴訟法に関する知識だけでなく、「論理的に考え、組み立てていく」ことの難しさと楽しさを実感してもらえるゼミになればと期待しています。

学生と一緒にパチリ!!



経済学部 小宮ゼミ

小宮ゼミには、4年生13人、3年生10人が所属しています。ゼミの雰囲気は明るく、毎回笑顔が絶えません。

私たち4年生が行った最大の取り組みは、今年の「商品開発プロジェクト」への参加です。これは、現代社会に存在しない新商品を考えるプロジェクトで、小宮ゼミは2チームが参加しました。私たちのチームはドリアンの香りを噴出する新形態の防犯グッズ「お守りしましゅ〜」を発案しました。この商品のコンセプトが固まるまでには、小豆島で合宿したり、構内でドリアンの臭いを嗅いだり、徹夜して作ったデータをメンバーが消したりと苦悩の連続でした。しかし、当日は無事プレゼンテーションに行き着き、他大学の先生からも高評価を頂きました。私たちのチームは上位への入賞ができませんでしたが、香川大学のもう1つのチームが

最優秀商品に選ばれました。グループでの取り組みによって、ゼミの結束力も高まり、とても充実したプロジェクトになりました。

これ以外にも様々な取り組みを行ってききましたが、課外活動として小宮ゼミに欠かせないのが「飲み会」です。月に1度は先生も含め、楽しくお酒を飲みます。こちらの活動をメインにしているメンバーもいます。ちなみに、先生は今まで飲み会に欠席したことはありません。必ず二次会まで行うほど、小宮ゼミでは重要な活動として位置づけられています。

このように、小宮ゼミでは年間を通して充実した活動が行われています。私たちはこのゼミでしかできない経験を、大学生生活最後まで満喫していきたいと思っています。



みんな 笑顔でにっこり

経済学部 星野ゼミ

平成19年度の星野ゼミは、4年生9人、3年生4人から構成されており、ミクロ経済学の理論と応用を学んでいます。

<4年生>

昨年の3年ゼミでは、授業の前半で毎週興味のある新聞記事について、担当者一人が簡単なレポートを作成し発表、各自その記事についての意見発表、討論などを行いました。後半はテキスト輪読で、各自担当の章についてレポート作成、発表を行いました。4年ゼミでは現在、卒業論文執筆に向けての準備を各自行い、進行状況や内容を発表し、先生や他のゼミ生からアドバイスなどを受けています。

ミクロ経済学と聞くと難しそう、堅苦しそうと思う人も少なくはないでしょうが、星野ゼミはみんな仲良く、楽しい雰囲気です。発表では議論が盛り上がるあまり、話が脱線し、談笑となることもしばしばあります。授業以外の課題活動としては、夏休みに日銀高松支店への見学に行き、行員の方のお話を伺うなどとても貴重な体験をしました。また、昨年秋には、ゼミ対抗のドッジボール大会に3・4年合同で参加し、二連覇は惜しくも逃しましたが、見事準優勝に輝きました。(野村真希)

<3年生>

3年ゼミでは、「ゲーム理論」(経済学にはミクロ経済学、マクロ経済学という2つの大きな柱が存在し、さらにそのミクロ経済学を2つの分析手法に分類したうちの1つ)について勉強しています。毎回教科書の内容を各自が要約し、レジュメにまとめて発表するといった流れで授業が行われます。時には数学を用いて問題を解くこともあります。

私たち3年生は4人という少数なので、必然的に他のメンバーと接することが多くなります。分からなければ他のメンバーや先生が理解するまで教えてくれるので、団結力も深まります。そのせいか、ゼミ生全員とても仲がいいです。(田邊清孝)



Vサイン、イエーイ

日銀高松支店前で 整列!!



みんな、なかま

